

昭和 20 年 7 月 1 日 日曜

二軍務課 宿舎ヲ才孝ノ水周邊ニ移シ南ノ

初宿泊ス。

平原重吉 東條大將也

0792

昭和20年9月2日 曜

機密 戦争 日誌

一 食糧對策ニ關シ農商省案飽キ足ラス際
 案ヲ捏示終日綜計ニ於テ説明ス
 農商省面子問題ノ如シ
 防空對策ニ關シテモ防軍案ヲ中心ニ本週中
 二 閣議決定スルヲ推進中ニシテ畑中・榎崎
 ヲシテ奮勵セシム。

昭和20年7月3日 火曜

一 参謀總長ニ對シテ記ヲ意見目録申ス

二 陸軍次官ノ交迭

三 南總裁ノ國民義勇隊中央協議會長就任及對

任及對

三 傳工作ニ關スル件

軍務局長ヲ

局長會報ニ於テ「政府ニ要望スル決戰施策

ヲ説明シ上司ノ意向ヲ體シテ再檢討スルコト

ス。

辻大佐ヲ對重慶政治工作ノ為上海陸運部

0794

昭和 年 月 日 曜

採用之件大臣電報ヲ種村起案發電ス。
政治的人事ト云フ一キカ。

敵ノ上陸ヲ本年初秋ノ候ニ見立場合要ヲ戰
略爆發ノニ元本土攻撃ニ對ルル方策ヲ研究
ス。要了。局長ニ意見具申ス。

本日ノ閣議ニ於テ

食糧一割減件決定シ直ニ發表ス。

國民ヨリテ食糧事情ヲ深刻ニ知悉シテ増産ニ
精進セシメカ爲農林大臣ノ強キ意志ヲ見ル。

昭和 年 月 日 曜

一、
柴田總務課長、東海軍一、参謀長轉出
送別會、素焼アリ。

0796

昭和二十年九月九日 曜

機密 戦争 日誌

次長歸一任不

夜大東亞農官杉原總務局長河相公使ト
神田龍名館ニ於テ會食 傳工作問題
關シ懇談ス。附テ提案ノ對重慶ノ食糧対策
ヲ午後半日ヲ費シテ内閣ニ於テ審議ス。
農商省ヲ抵抗多ク眼界狭シ。

62

0797

昭和20年7月8日 木曜

午前第二部情勢判断ヲ總長以下ニ報告冗長
ニテ要點ヲ失ヒ政治的ニ流シテ作戰ヲ忘却ス
今日ノ急務ハ敵ノ採ルニテ各案ヲ如何ニテ迅速ニ判
断セントスヤニ存ス点數取ニ了ル勿ト。
一階ヲ提案ノ防空対策次官會議ニ於テ才流
レトス。
二午後杉田高名兩名ノ南方ヲ歸任報告アリ
ヒルマシテ撤退ニ伴フ森ニ對スル作戰批判アリ
軍人ハ最後ヲ日取モ正シクスヘシ
本村將軍ノミヲ責ムルヘカラス。

0798

昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

南大將長男重義少佐ニ對シ大將ノ進退問題
ニ關スル事ノ意見ヲ傳達セシム

63

0799

昭和20年7月6日 曜

中央協議會會長南總裁就任問題ニ關シ陸軍ノ
態度ヲ決定スルハ大臣ニ對シ意見ヲ具申ス。
大臣ノ態度ハ

1. 内務大臣ノ態度ヲ支持ス

2. 些細ナル本件ニ介入ヲ好マス

3. 建川中將ヲ河田所僭行社別館ニ招シテ金

二萬圓ヲ交付シ東方社問題ヲ解決ス。

系内大將等ノ回書ヲ卒ニテサヒラス。

午後一時半ヲ新任兵團長(第三次兵備)飯林

0800

昭和 年 月 日 曜

機密戦争日誌

中將以下三尉之軍事情報特別措置法、戦争指導
國內重要問題等三閣之約一時間ニ亙リ説明
ス
夜課内會報 高倉中佐報告ヲ聴取ス。

昭和20年7月7日 土曜

一 支那事情筆記急日何ノ感覺ヲ述レ。

一 次長ニ對シ留守中ノ概要ヲ報告ス。

一 正午頃總理大臣秘書官鈴木武西村ノ兩名
直接小宮ヲ訪シ中央協議會長問題ニ關ス
ル總理ノ心境ヲ詳フルトシテ乃チ總理ノ
白紙ナリ迫水ノ御手洗(南大將、秘書)ニ南
ノ協議會長就任ヲ約束セシメ端ヲ發シタルニ
ナリ總理ノ小節ノ信義ノ云ハテ外ニ

0802

昭和 年 月 日 曜

機密戦争日誌

予ノ善處ヲ要望シ来レモ、迫水勲大佐
秘書官カ迫水ヲ補佐セシメテ、予ニ迫水ノ不當
ヲ訴ルハ適當ナラス、迫水ヲ補佐セシメテ
スレタリ

二午後一時半、總理官即ニ格于軍需省
特攻兵器燃料計画ヲ聽取ス要ハ
大本營直轄軍需總監部ヲ設置セシトス
ルニ在リ

昭和 年 月 日 曜

陸海軍ノ統合ヲ云々せん等
各省總務局長ヲ集メテ云々云々ノ
事白軍需大臣ヲ告フ件・A・B大臣ニ提議
下ク渡レトせん。

0804

昭和20年9月8日 日曜

午前八時—九時 閣下北澤ノ私邸ニ南大將ヲ訪問
 大將ノ中央協議會會長就任ニ関スル陸軍ノ態度内
 閣ノ希望(辞任)大將ノ進退(五案)總理トノ面接
 等ニ関シ意見具申ス。騎兵大佐野村ニ接
 せん心境ニテ才熟ニスレハ大將モ亦協軍ト云ハルノ心境
 三十分目的ヲ達シテ辞ト云ス。大將モ本件今日
 迄總理ヨリ直接聞キレコトナシ
 正午—陸軍大臣ニ大將ノ傳言ヲ傳達ス
 總理本朝大禮奉戴日ニテ明治神宮参拜ノ

昭和 年 月 日 曜

第陸軍大臣ニ對シ中央協議會會長問題ニ關スル總理ノ心境ヲ語ルトコトアリ、
即チ從來ノ態度ヲ一變シ

一既定ノ國民義勇隊中央協議會及中央事務局ヲ撤回ス

一右事ヲ内閣ヲ安定セシム

日政トノ正面衝突ヲサヤカシム

陸軍大臣之ニ同意スルトコトアリ、直チニ南大將
ニ面會ヲ申入レ午後三時總理ト南大將會見ス
圓滿解決ス、後日政對政府ノ問題ノ云。

0806

昭和 年 月 日 曜

機密戦争日誌

書記官長ヲ中心トシ防空對策ヲ再審議ス
秋永中將胃潰瘍ニテ臥床 白井、竹下ト共ニ
林權ヲ持テ見舞ハス。

67

0807

昭和20年9月9日 曜

一九時三十分了瀬島中佐(國東軍轉出)

中將ノ希望ニヨルノGF在任間ノ報告アリ

總結論

1. A, Bノ協同可ナレモ常ニA主動タレシ

2. 海峡封鎖ニBヲシテ徹底セシムルヲ要ス

3. 情報ノ蒐集ニ關シA, B協力シ事前ニ

企圖偵知ニ遺憾ナキヲ要ス

4. 中央協議會問題ニ關シ總長ニ報告セシムルヤ

大臣來室ニ同様ヲ欲ス

陸軍ノ嚴正ナル態度カ今日ノ決定ヲ見ルニ至ラシモ

0808

昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

ト認ム

同慶、至りたり。

二南次佐父大將ノ命ヲ受ケ昨日ノ圓滿解決ノ報告
シ来ル。予ノ誠意通シタリト云フヘシ。

老犬將ノ日政操縱困難ヲ極ムルヘク才氣ノ毒ヲ毛國
家ノ為ナリ。迫水ノ對日政政治的立場極メテ
陰悪トナリ之ヲ固トシテ内閣ノ危機ヲ察セラル。

一次官會議ニ於テ空能不及食糧應急對策ヲ
議セラル。

昭和二十年七月十日 火曜

一 閣議ニ付テ

食糧對策

空襲對策

決定ス

一 綜合計画局長官後任問題ニ関シ

海軍中將高木少將ヲ推シタルモノトシ、右ノ信

息ハ如何ヤト申シ置ケリ。

陸軍中將、積極的ニ出サレトス。若シ出スト

其地田純久トシ、然レ場合、關東軍中將ノ第四

課長トシテ、一歩出馬ヲ希望セリ

追氷ハ左積中將ヲ希望ス

0810

昭和 年 月 日 曜

機務課 等 日誌

一夜毎の新聞の阅读及芝岡ト會食ス彼等亦彼等ノ進ム道ヲホメテト云ハルモノ如シ。

新聞ノ横閱制度撤廃ヲ要スルニ

一艦載機ハ口機來襲

一機ヲ損スルト云ハシ。

大本營發表ニ撃墜機ナキトサヒシ。

航空撃墜機我機ノ第一日ナリ。

昭和20年9月11日 水曜

午後最高會議臨時召集對少問題ヲ協
議セルモノ如ク皆トシテ不明ナルモ難概ニテ之
カ。

午後四時半ヨリ大臣ヲ前ニテ陸軍省課長會報
アリ會報事多クシテ報告ナリ。

閣議ニ於テ最近細山事ヲ議スル事多シ大

臣ヨリ再三ノ注意アリシモ改マラス

大臣皇軍人事ヲ説ク。

人ヲ代ハカズ人ヲ運用スルニ

大臣訓示ノ神髓失陷ニ伴ヒ大臣ノ軍務方

0812

昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

針 付

一 夜 平 原 別 館 於 市 町 村 強 化 方 策 ヲ 現 地
視 察 之 結 果 研 究 ス

70

0813

昭和20年9月12日 木曜

一 燃料問題三園之大臣總長ニ對シ報告ス。(南

中依見)

今後如何ニシキヤ決スルコトナク單ニ窮状ヲ

訴フルニシテ惟モ軍需省報告ノ如シ。

一 地迴司令部配屬特赦ノ送別會ヲ行フ。

一 大東亞省政務課長以下ト會食アリ 彼等ノ心
理疑フモノ多シ。

0814

昭和20年7月13日 曜

機密戦争日誌

對泰指置及東印度獨立施策ヲ幹事補佐
於テ研究ス。

高倉中佐出張一ヶ月ノ結言ヲヒツクリ返シテ相スマ
スモノアリ 現地ニテ強姦セシメテ彼ヲシテ中央軍
ニ返シルルモ氣ノ毒ムヲ以テ買テ出テタルモノ
ナリ

加藤大佐一週間ノ待機ノ後漸ク出發ス
陸軍次官若松中將決定ニ來週發表ノ如シ彼
何ヲ力也高スカ。

昭和20年7月19日 土曜

大將會アリ 第三部長及軍務局長ノ報告
アリ 彼等ノ豫能ヨリ馬鹿大將ト云フ
午後一時了 自由市場ニ関シ閣僚懇談アリ
大臣局長出テズ 榎村出席 必あり認め來週
中ニ農商省ヨリ提案見コトナリ 陸軍案ヲ
定見ニ有リ 三月陸軍案出テ 綜計案出タ
一月 綜計案出テ 二週間ニテ農商案出ルカ
時期已ニ失ラズニ至ルハニ
東也、其海道ニ機動部隊來襲 釜石ニ艦

0816

昭和 年 月 日 曜

砲撃撃撃、青函連絡船四隻撃沈せり。

一軍需大臣より先般大本營より下二軍需總監
部設置案より提案し來り。

大臣より好意的に研究せり如く指示ありタルモ陸
軍の態度曖昧なり。

本朝日書記官長A B局と遠藤中将向
研究あり。

本日更に軍需大臣に微表より兩局長に述べ
しと之に局長稻根は次官より訪問せしより延期ト云

昭和 年 月 日 曜

最近局長は此種問題に關し陸軍ノ態度ヲ定ムルニ軍務課ヲ埒外ニ置キ不愉快千萬ナリ。陛下實行ノ緒ニ就カトスルノ熱意ナリ陸軍ノ消極的態度假遺憾ニ堪ヘス。

一軍事課長ノ義勇戰鬥隊座談發表ス

昨日ノ

談トモ關係アリテムレハ滑稽

千萬ト云フハレ

二千後三時ナリ首相官邸ニ於テ總理院梅外相對シ問題ニ關シ協議スルトコトアリ

0818

昭和20年 〆月 〆日 〆曜

近長上海方面ニ出張作戰準備ヲ實施ス

東印度ノ獨立措置ニ對テ泰極策ヲ大臣(在私
邸)ニ報告ス

本朝来ノ機動艦隊ノ行動ニ對テ青函連
絡ノ全滅ヲ遺憾ニ不堪

釜石、室蘭砲撃ヲ受ケ不面目也上モ
ナク言譯ノ餘地ナシ

昭和20年7月18日 曜

地方總監會同ヲ實施セラル

總理以下ノ發言ハ才座アリニテ此ノ條下總監ヲ
集メテ云フホトノコトモナシ。

陸軍大臣ヨリ

一 機動艦隊ヲ既編成セシメタルニ對シテ才座ハ

二 軍ノ正シカラサルヲ進ニテ進言セラレタキ件

三 義勇隊ノ育成ニ盡力スルト共ニ義勇隊斗隊

ノ編成ニ協力セラレタキ件

軍務局長ヨリ

一 小運送事業務運送官要領

0820

昭和 年 月 日 曜

機密 戦争 日誌

之、陸軍ノ中央権限委譲要領

大塚中国總監ノ法源ヲ發言ス

各大臣ヒヨクナリ。各總監ノ發言ニ基キ

今後措置スル事件ハ

一、沿岸地帯住民撤退ノ時機明示ノ下

(九洲、四國以外)

二、防空對策中三万以下ノ都市ト雖モ必要ニ

應ジ疎開實施可ナリ

三、關門ノ國境ヲ陸軍ニ於テ擔任スル可也。

昭和 年 月 日 曜

一 夜外務省政務局長ノ招宴アリ閣料理トテ管理ス
ルニトナリ。

一 陸海軍軍務課ノ懇談會ヲ船橋三田港ニテ行フ。
予ハ欠席。此中大佐出席。三引談會ナリ。

0822

昭和20年7月17日 火曜

機密 戦争日記

竹下中佐東部軍青年將校及在郷軍人聯合分
會長以下ヲ召集メテ共ニ講堂及船橋三田沼ニ於
テ本土決戦必勝ノ確算ニ関シ講演ス。堂ニ滿
テ盛會ナリ。

午後二時ヨリ地方總監府主幹連中ニ對シ禮堂
ニ作戦及戰術ヲ指導ノ見地ヨリ國內施策ニ
對シ要望

國民義勇隊ノ指導育成ニ關スル軍ノ要望

昭和 年 月 日 曜

ニ付口談ス

三午後三時三十分宮中ニ於テ最高會議開カレ

一 東印度獨立施策

(大東亜大臣説明)

一 對泰施策

(玄積局長説明)

ヲ決定ス

一 軍需大臣ニ對テ統帥部ノ要望

(釜石、室蘭、青函ノ被害ヲ受ケテ作戰上

ノ要ヲ請ニ副ニ難キ事)

最高會議ノ諒解トシテ軍需大臣ヨリ上奏

0824

昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

セシクルコトハス。

日本閣議ニ於テ陸軍次官ノ交代ヲ決定ス

若松男一中將ナリ。柴山次官静養地ノ箱根ヲ

上京。憔悴才氣ノ衰ナリ。大東亞兵隊ノ攘

牲ナリ

昭和20年7月18日 水曜

一 東條内閣瓦解一週年、

近來天候冷涼昨年今日、暑熱ト以テ感殊
更ニ深シ。

恒例ニ見テ用前ノ内閣ガ3ツ年ナキモ天候ノ為
力。

一 軍務局長ニ對シ國內施策上内閣ノ要望(案)
報告研究ス

一 夜政務次官ノ招宴アリ戦備軍事課長ト
共ニ會食ス。

0826

昭和 年 月 日 曜

機密戦争日誌

一 次官交送 若松中 特 發 令

一 内務省保安課長ノ 報告ニテ 竹下 権 嶺 烟
中 去 席 一 又

0827

昭和20年9月19日 木曜

一 柴山中將若松中將に對する留送ノ挨拶アリ。

新次官トコマテヤルカク着眼点ヲ示シカヌ。トコトニ迄

ヤラズハナラヌ?

一 竹下中佐其講堂及三田浩ニテ第二次講演ヲ

行ヒ聽衆堂ニ滿リ。

一 東印度獨立指導ノ團ニ南方軍總司令官ハ

海軍省政機團ヲ区處スル旨漸ク海軍側

ヲシテ納得セシム。劃期的トイフハシ

一 新次官ニ對スル情況報告資料ヲ調製ス。

最高會議及閣議決定級ト共ニ。

0828

昭和 年 月 日 曜

一 大臣水戸仙台札幌方面出張ス。

一 昨午、本日の梅津参謀總長挨拶ノ旨十九日
トイフ日ハ奇ニ半日哉。

一 總理國務司合之室ヲ巡視ス

一 其日國內班ト右翼トノ會食ヲ丸ノ内ヲ求ルニテ
行ク至極圓滿也

昭和20年9月26日 金曜

部下より後援をせられたルトキ、上層ノ立場ヲツク
本程我身ニシミタル事トナシ職ニ止マルコトヲ潔ク
トセ。但し正ラ踐ミテ堂々取ツル事トナキモノ、最
モ強シ。

一、東條大將ヨリノ電話ヲ受テ、自宅ニ参上
對シ交渉ノ三関ニん情勢判断
右ニ伴フ注意事項

一、館ヲ迄戦フ意志ヲ明カセんと
二、國體改革ノ如キ思想問題ニ留意ノ事

0830

昭和 年 月 日 曜

機密 戦争 日誌

大將ノ國ヲ思フノ一念敬意ヲ表スモノアリ。

直々ニ局長ニ報告シ善處ヲ要ス。

孝子烈婦ノ表賞件ニ閣議決定 近頃

ルコトナキモノ如シ。

昭和20年9月21日 曜日

一 杉田大佐朝鮮軍ニ轉出。

種村親泊、村上、田人ニテ會食。

一 午後一時より、自由市場ニ関スル次官懇談シ

午後四時より、支那經濟ニ関スル件ニ次官懇

談アリ

一 支那問題ニ関シ有クモ陸軍ト協議スルノ内

閣ノ問題ニ至リテ閣ノ大東亞政策ニ抗議セ

ルニ陳辨アリ

米官ニ對シ津川少佐より、自由市場ノ陸軍軍手続

0832

昭和 年 月 日 曜

機密戦争日誌

明廿四

国内問題ヲ解決シ得ル内閣ノ能力カ支那問題ニ乘リ出サトスニアルモノ、如シ。

田尻次官如何ニテキヲ問ヒシヲ以テ簡單ニ片ツケル如ク申入レ置ケリ。

一 雨ノ為大臣ノ歸任遅ル。次官ニ着任早々次官會議ヲ才氣ノ毒ナリ

フ多クセガラシムトテ恐ル。

昭和 年 月 日 曜

多年支那問題ノ為奔走せり嘗、脇大臣病ノ為
遂ニ死去ス。

天候ノ為大臣北海道より未夕帰一ス。

0834

昭和20年7月22日 曜日

機密戦争日記

一、帝那防衛軍主催ノ軍官民合同會議ニ於テ種
村口漢防衛軍ノ才先棒ヲカツク。

一、竹下中佐常岡少佐統率ノ神風特攻後續

隊ヲ石神井ニ視察ス。乙女ノ純情ニ感激ス。

一、重慶工作並對シテ密買ニ関スル上奏書ヲ起

筆ス。

一、大臣夕刻帰任。

一、東印度独立指導ニ関スル大體指ヲ示達ス。大臣

昭和 年 月 日 曜

總長在^らんモ陸海軍決定ニ海軍同意シ奉リ
タ^ルヲ以テ直々ニ發令セリ。
獨立指導ニ關シ陸軍ノ區處ヲ受ケルコトヲ海
軍力納得ヤ。蓋シ海軍南方軍政放棄ニ等
シ文作業アリ。但シコトオソシ。此ノ次ニ支那ノ
一元化ナリ。

0836

昭和20年7月23日 曜日

一 午前10時、内閣顧問、對日本土決戦確算、三國
一 問一答ヲ行フ要、敵ノ空爆戦法、對スル
對策如何ニ存ス。

一 對支新對處方策現地ノ一元化ヲ中心トシテ
研究ス

一 砲總長ノ課長以上招宴ス、一杯氣嫌ス
上々ナリ

一 國民義勇隊指導要綱ヲ内務、海軍、陸軍
ニ分テ研究ス。

昭和20年7月24日 火曜

一 航空總軍ノ報告アリ
低調ナリ 釜石・室蘭ニ敵艦砲ヲ見セテ航空
ヲ信賴セヨトイフモト生理ナリ
一 海軍ニ對シ對支方策陸軍案ヲ交付ス
一 大區對シ交易ニ關シ上奏ス
一 總長ヨリ日蘇協同作戰協定並東印度獨立
立措置ニ關シ陸軍ノ處置ヲ上奏ス
一 三笠宮大宮陛下ノ緊井澤疎宥ニ關シノ高性
國人及重臣對關ヲ追拂フヘシトノ種ヲ意見ス

0838

昭和 年 月 日

機密 昭和 年 月 日

田中 大 臣 直 訴 せ ざ らん。

昭和二十年六月五日 水

一 参謀副長會同了り

軍紀亂紀ノ刷新及人事措置ノ改正徹底ヲ目的

トス

大體了六月二十八日ノ訓示ヲ附加説明了り堂々

々勝ノ信念ヲ説明了り

一 午後一時間半了り國內事情ヲ種々了り

説明了り

和知中將ノ参謀總長ニ對シテ報告了り

0840

昭和20年7月26日 木曜

機密戦争日記

高瀬通元氏を来訪内閣後進説ヲ傳フ。
通水ニ傳達ス。

松岡上京参内内府ニ面接ス對シ問題ニ

關聯シ國民ノ關心大ナリ

和知中將ト懇談南方政勢ノ概多ク説明ス。

陸運部ノ會議大陸訓示ニ關シ細事ニ關シ軍

事情ノ山僧共筆ヲ入レ石居千島ナリ

弱キヲ扶ケニ局長ヲ欲得也シム。